
「核兵器のない世界へ」 NPT再検討会議にむけて ニュース

〒852-8107 長崎市浜口町6-5 木下ビル Eメール:nagasaki65@forest.ocn.ne.jp

電話・095・844・0705 FAX・095・844・0728 発行者 片山明吉

九州・沖縄ブロック原水協学校

1月30日～31日 佐賀県川上峡温泉「龍登園」で九州・沖縄ブロックの原水協学校がひらかれました。鹿児島を除く7県から75名が参加、長崎からはNPT参加代表を中心に、1日参加2名を含め13名が参加しました。



記念講演する土田弥生さん(日本原水協事務局次長)



NPT参加の決意を発言する岩崎絵里香さん(長崎)



原水協学校会場風景

会議は最初に土田さんが「核兵器のない世界へ=チャンスを実現させよう」と題して記念講演。今日の情勢をつくりだした21世紀最初の10年間の運動、核兵器をめぐる現状に触れ「核抑止論」との闘いの重要性を強調しました。同時に日本政府が「核兵器廃絶の先頭に立つ」「非核三原則堅持」の立場を公表しながら、国連総会での諸決議採択では、自・公政権と変化が見られないこと。そのためにもNPT再検討会議にむけた「核兵器のない世界を」署名目標をやりとげ「核兵器はいらない、なくそう」の声をニューヨークに届けよう と力強くよびかけました。休憩を挟んで後半は、各県原水協から報告が行われました。大分からは、日出生台の様変わりした演習の実態。宮崎からは、市長、

市議会議長等6氏がよびかけ人となり、3千数百人の班長さんたちの手によって全市民ぐるみの署名運動で、17万市民の3分の1、6万3200筆がよせられた経験を報告。沖縄からは、名護市長選挙のたたかい、普天間基地をめぐるたたかいの報告。熊本、福岡、佐賀からも署名運動の経験が夫々報告されました。長崎からは、松尾、尾崎、岩崎、橋口、黒田、佐久間、藤原さんの7名がNPT再検討会議をめざす署名のとりくみを報告しました。署名のとりくみでは、1000筆達成をめざしている(藤原) 友人・知人に手紙で協力をよびかけ次々に署名が寄せられている(820筆を集めた東さんの経験)など幅広く協力を呼びかけている経験が語られました。